

書く・描く・画く

— Write · Draw · Paint

書く、それは自分を表現すること。
描く、それは心を映すこと。
画く、それは創造すること。
私たちがつくる様々なペン先は、使う方々の想いを表現するお手伝いをしています。

人にやさしく

— Quality of Life

私たちのつくる医療機器は、
安全性・機能性を追求し、
患者様のQOL (quality of life) のさらなる向上を目指しています。

美しく、より美しく

— Beautiful and Elegant

永きに渡るペン先のモノづくりで積み重ねた技術を生かし
安全性に配慮した、
人に優しい製品づくりを心がけています。

2026年3月期第3四半期

決算補足説明資料

2026年2月6日

Au

オーベクス株式会社



証券コード | 3583

01 – 会社概要

02 – 事業内容

03 – 2026年3月期第3四半期決算概要

04 – 配当について

05 – 長期ビジョン

06 – 第9次中期経営計画

07 – サステナビリティについて

商号	オーベクス株式会社
資本金	19億3,983万円
代表者	代表取締役社長 栗原 則義
創立	1892年（明治25年）12月12日
設立	1893年（明治26年）12月29日
本社	〒130-0026 東京都墨田区両国4-31-11 ヒューリック両国ビル9F
連絡先	TEL：03-6701-3200(代) / FAX：03-6701-3023
事業内容	【テクノ製品】 サインペン先、コスメチック用ペン先の製造販売 【メディカル製品】 医療機器の製造販売
従業員数	124名（連結 363名） ※2025年12月31日現在
グループ企業	オーベクステクノロジー株式会社 オーベクスメディカル株式会社 天津奥貝庫斯技研有限公司

真心をこめて、暮らしに欠かせない文化と科学を提案することにより、 豊かな社会づくりに貢献できる企業を目指します。

人と社会に正しい貢献を。

当社の創業者である渋沢栄一は、著書である『論語と算盤』の中で「富を成す根源は何かといえば、仁義道德、正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができぬ。」と述べています。その理念を受け継ぐ当社は、企業の存在価値を「どんなに技術が進歩し、さらに高度な時代になろうとも、人と社会に対する正しい貢献の在り方」と考えています。

いつの時代も、可能性をあきらめず、まっすぐに。

当社は、明治・大正・昭和・平成と社歴を積み重ねてきました。その間、戦争、度重なる恐慌、大震災、戦火による全工場の焼失、中折帽の斜陽化、石油危機、バブル経済崩壊など幾多の試練に直面してきましたが、先人たちは、誠実さと不屈の精神で活路を切り開いてきました。この誠実さと不屈の精神は、私たちの誇りであり、かけがえのない財産として受け継がれています。

「より役立つもの、より優れたもの」を。

当社は、豊かな社会づくりに貢献するため、「より役立つもの、より優れたもの」を常に追求しています。これらを実現するためには、アイデアを生み出す「企画開発」、それを実用化する「技術開発」、安定した製品を生み出す「生産技術」、より品質を高める「品質管理」のどれひとつをとっても欠かせないものであると考えています。「より役立つもの、より優れたもの」を生み出すために長年受け継がれてきた誠実さと不屈の精神で日々モノづくりに取り組んでいます。

モノづくりを通じて拓がる未来へ。

当社の社名であるAuBEX（オーベクス）は、黎明、曙を意味するフランス語の“AUBE”と可能性、未来の意味合いを持つ“X”とからなる合成語であり、「新しい可能性への曙」「拓がる未来」を意味しています。豊かな社会づくりに貢献する企業を目指し、これからも誠実さと不屈の精神をもって、モノづくりを通じて「人に想いを伝える。人の想いに応える。」企業として、その未来を拓げていきます。

当社は、近代日本資本主義の父といわれる渋沢栄一が設立した会社です。1892年（明治25年）に舶来山高帽子の国産化を目的とする東京帽子株式会社として創業し、1985年（昭和60年）に現在のオーベクス株式会社に社名を変更しております。1892年の創業以来、長い歴史の中でいくたびかの変遷を経て、長年の帽子製造で培った加工技術を応用し、現在ではペン先メーカーとして世界市場で高いシェアを持っております。ペン先製造技術をさらに進化させ、医療機器分野やコスメ分野へと、その事業活動を拡げております。

テクノ製品事業

売上
構成比率
71.3%



サインペン先、マーキング用ペン先などの筆記具関連、アイライナー用ペン先、ネイルケア用ペン先などのコスメチック関連を主力製品として、その他スタイラス用ペン先などのPC周辺関連をはじめ、芳香剤用芯などを取り扱っております。



メディカル製品事業

売上
構成比率
28.7%



自社開発の流量制御チューブを採用した薬液注入器や安全性と利便性を追求した親水性ガイドワイヤーを主力製品として、その他医療用材料を取り扱っております。



決算サマリー

連結売上高 前年同水準

営業利益 29.9%減

四半期純利益 1.8%増

- 今期より、新中期経営計画（オーベクスビジョン2027）がスタート
- テクノ製品事業の売上はやや鈍化、メディカル製品事業の売上は堅調に推移
- 営業利益は、人件費の増加や原材料費等のコスト増加により減益
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、税金費用が減少したため増益



トピックス

2025年10月

「メディカルクリエイションふくしま2025」に出展

異分野の技術融合が拓く未来一。

テクノ事業部・メディカル事業部の協働により、

新領域への本格展開を加速

当社はこの度、テクノ事業部とメディカル事業部の協働により、「メディカルクリエイションふくしま2025」に出展いたしました。本出展は、両事業部の強みを結集した「共創」による新領域への挑戦であり、具体的な事業シナジーを生み出す一歩となりました。



組織の枠を超えた「共創文化」の体現

これまで異なる領域で事業展開してきた両事業部が、準備段階から緊密な連携を継続していくことで、お互いの技術価値を再認識し、組織としての一体感を高めつつ、従来の枠を超えた「共創文化」の育成を推進してきました。

今回の主な成果

- ・市場ニーズと技術シーズの高度なマッチング
- ・多角的な視点による新価値の発見
- ・事業部間の技術融合によるシナジーの具現化

人々の健康と豊かな暮らしへの貢献

今回の出展で得られた新鮮な気づきや市場からのフィードバックは、今後の製品開発および営業活動にダイレクトに反映させてまいります。テクノ事業部×メディカル事業部の力を結集し、メディカル業界をはじめとする新たな市場において、「人々の健康と豊かな暮らしに貢献する価値創造」をさらに加速させてまいります。

連結損益計算書（P/L）

- ・売上高は、テクノ製品事業が第3四半期に入りやや鈍化したものの、メディカル製品事業が堅調に推移し、4,540百万円（前年同期の売上高は、4,538百万円）。
- ・営業利益は、人件費や原材料費等のコスト増加により、29.9%減の487百万円。
営業利益率は、10.7%となり4.6ポイント減少。
- ・四半期純利益は、税金費用が減少したため、1.8%増の462百万円。

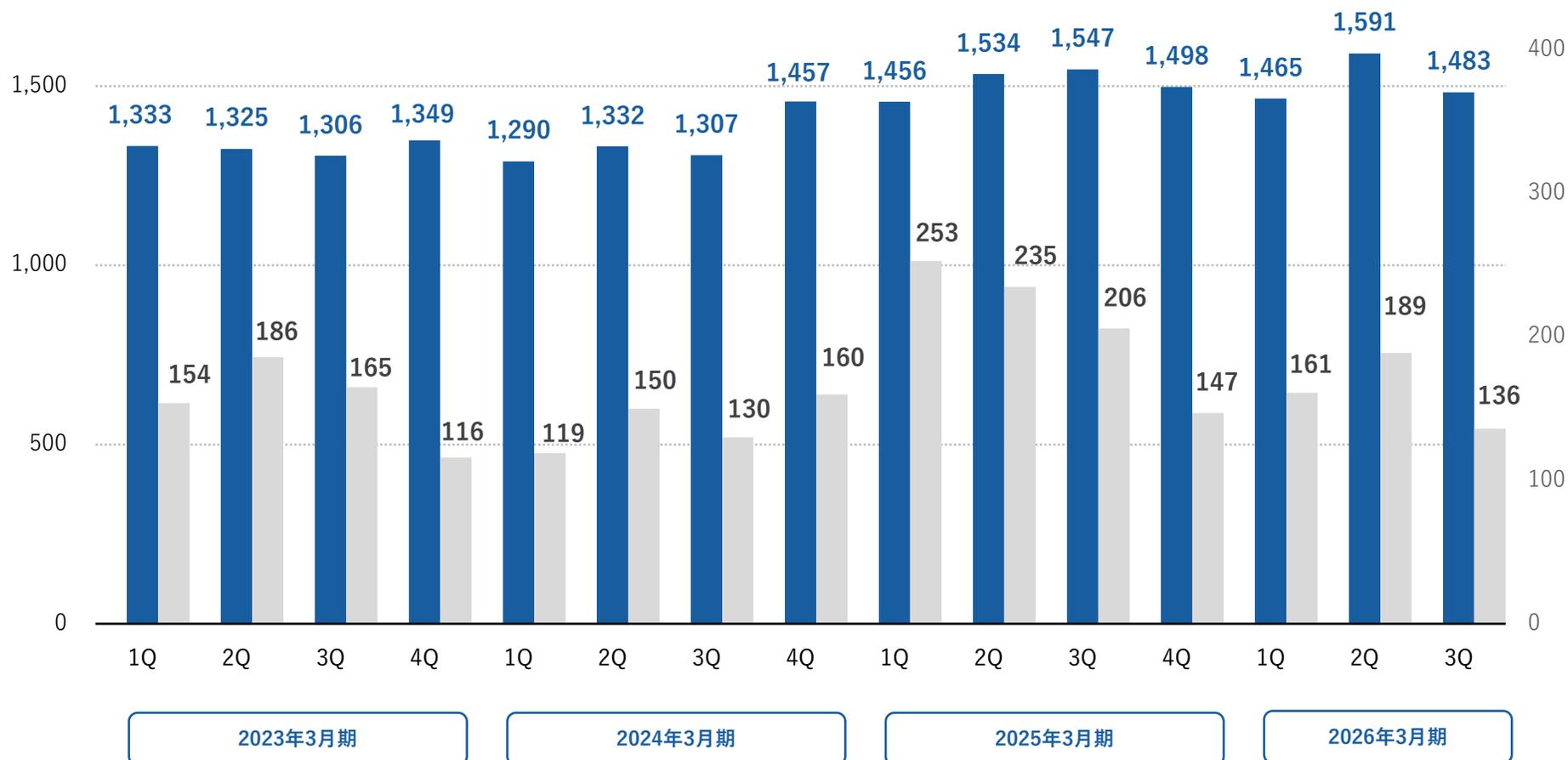
（百万円）

	2025年3月期				2026年3月期	前年同期比
	第1四半期	第2四半期 累計期間	第3四半期 累計期間	通期	第3四半期 累計期間	
売上高	1,456	2,991	4,538	6,035	4,540	+0.0%
営業利益	253	488	695	841	487	△29.9%
経常利益	271	453	697	814	494	△29.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	179	302	454	580	462	+1.8%

売上高・営業利益の四半期推移

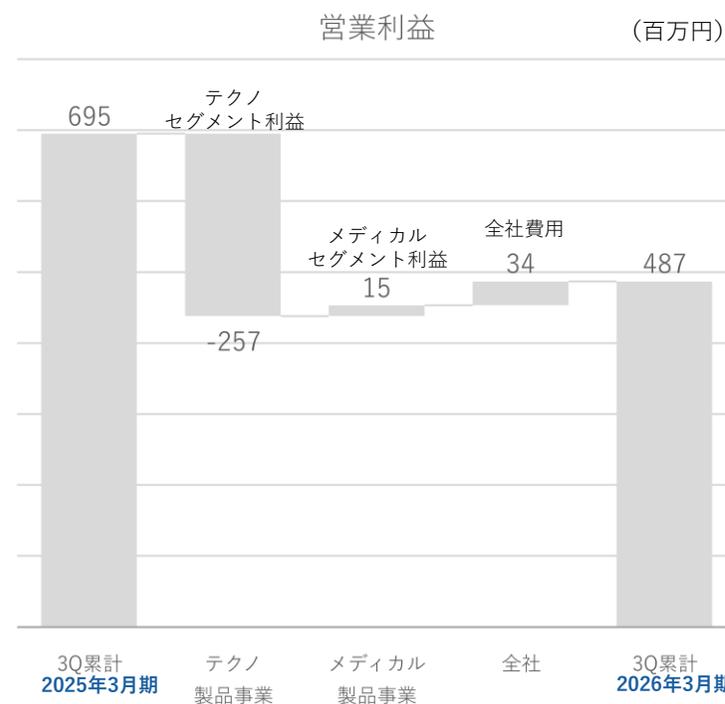
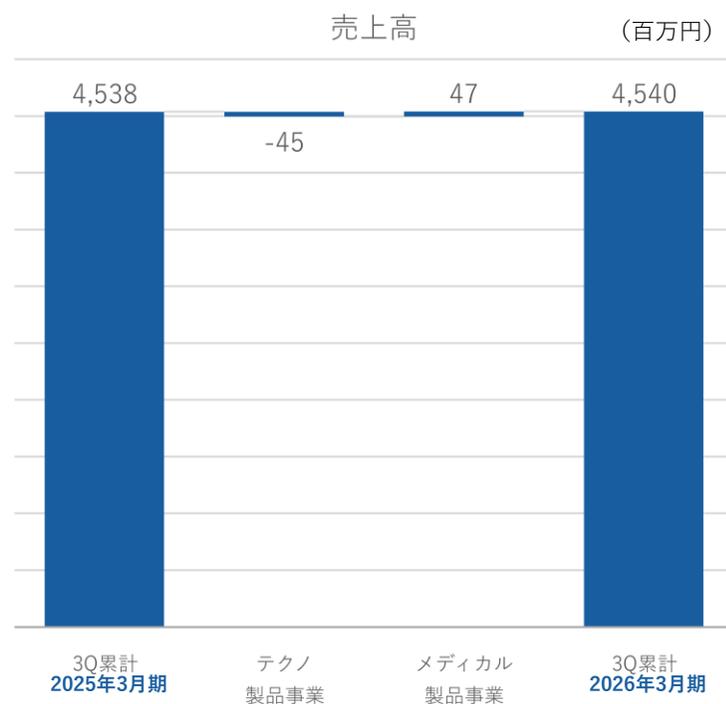
■ 売上高 ■ 営業利益

(百万円)



売上高・営業利益の増減要因

- ・売上高は、前年と同水準。テクノ製品事業は筆記具関連がやや鈍化したものの、コスメチック用ペン先は復調傾向。メディカル製品事業ではシェア拡大に向けた販売活動に注力。
- ・営業利益は、人件費や原材料費等のコストが増加し、前年同期比で207百万円減少。



セグメント別状況

テクノ製品事業

中国地域において、筆記具関連の売上がやや鈍化。コスメチック用ペン先の売上は復調傾向。人件費や原材料費等のコスト増加により減収減益。

メディカル製品事業

国内外の医療機器展示会や学会などにおける積極的なプロモーション活動の展開により、売上は堅調に推移し、増収増益。

(百万円)

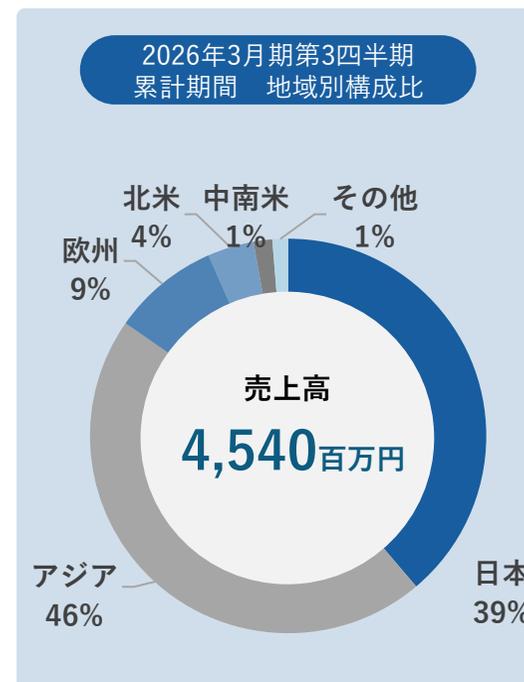
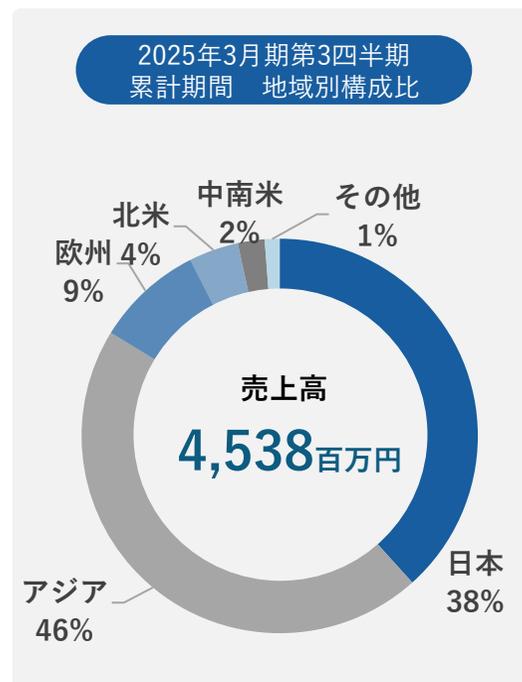
	2025年3月期 第3四半期累計期間		2026年3月期 第3四半期累計期間		前年同期比 (%)	
	売上高	セグメント 利益	売上高	セグメント 利益	売上高	セグメント 利益
テクノ製品事業	3,281	858	3,235	600	△1.4	△30.1
メディカル製品事業	1,257	100	1,304	115	+3.8	+15.6

地域別売上状況

売上高は前年同水準。中国を含むアジア地域は、やや鈍化。日本国内は堅調に推移。欧州はやや復調傾向にあるものの、北米、中南米地域は低調に推移。

(百万円)

	2025年3月期 第3四半期 累計期間	2025年3月期 第3四半期 累計期間	前年同期比 増減率(%)
日本	1,738	1,761	+1.3
アジア	2,060	2,081	+1.0
欧州	398	396	△0.6
北米	184	172	△6.4
中南米	99	69	△30.9
その他	55	58	+6.6
合計	4,538	4,540	+0.0



連結貸借対照表（B/S）

（百万円）

資産の部	2025年3月期	2026年3月期 第3四半期	増減
流動資産	6,585	6,630	+45
固定資産	3,257	3,373	+116
有形固定資産	2,944	2,967	+23
無形固定資産	33	45	+11
投資その他の資産	279	360	+81
資産合計	9,842	10,004	+161

（百万円）

負債・純資産の部	2025年3月期	2026年3月期 第3四半期	増減
流動負債	1,639	1,444	△194
固定負債	1,495	1,436	△59
負債合計	3,135	2,880	△254
株主資本	6,529	6,864	+334
資本金	1,939	1,939	–
資本剰余金	517	517	0
利益剰余金	4,328	4,690	+361
自己株式	△256	△282	△26
その他の包括利益累計額	178	259	+80
純資産合計	6,707	7,123	+415
負債・純資産合計	9,842	10,004	+161

2026年3月期
第3四半期自己資本比率
71.2%流動比率
459.1%固定比率
47.4%

連結業績予想（2025年5月12日発表）

- 2026年3月期の通期連結業績予想につきましては、売上高6,200百万円、営業利益750百万円、経常利益730百万円、親会社株主に帰属する当期純利益510百万円を見込んでいます。

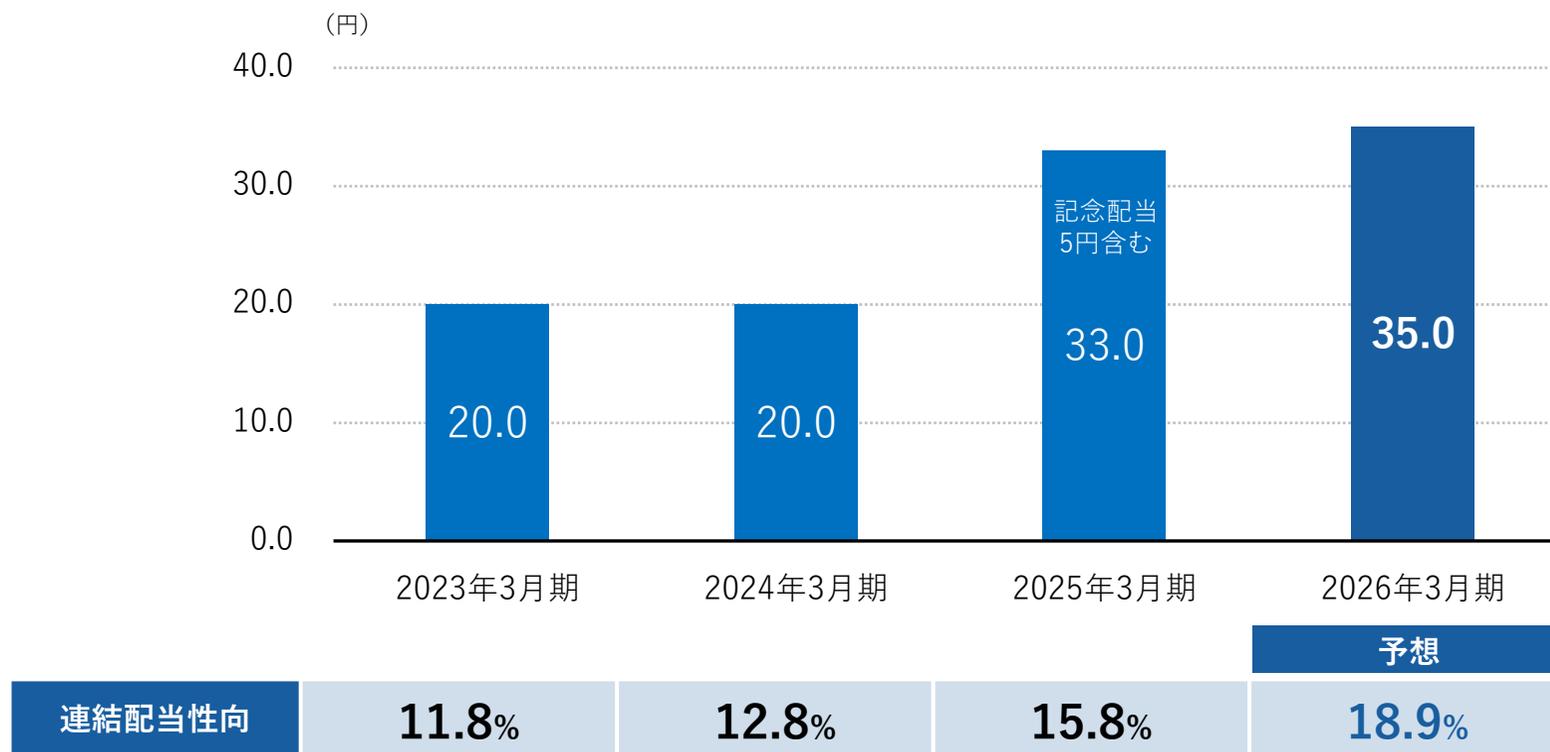
(百万円)

	第139期	第140期	第141期		進捗率
	2024年3月期 (実績)	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (予想)	2026年3月期 第3四半期 (実績)	
売上高	5,387	6,035	6,200	4,540	73.2%
営業利益	560	841	750	487	65.0%
経常利益	600	814	730	494	67.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	436	580	510	462	90.6%

配当方針

利益配分に関しましては、株主の皆様への利益還元を最重要課題の一つと考えており、将来に向けた研究・開発、設備投資等を行うための内部留保の充実を図りつつ、中長期的視野に立って収益に対応した安定配当を行うことを基本方針としております。

配当金の推移



長期ビジョン達成に向けたストーリー

- ・テクノ製品事業は高付加価値製品の開発強化により事業基盤としての収益性の更なる向上を図る。
- ・メディカル製品事業はベセルフューザー®を成長のドライバーとして位置付け収益基盤を強化する。
- ・グループコア技術を結集し、第3の事業を創出する。

2034年度
/150期

2027年度
/143期

2024年度
/140期

第8次中期経営計画（実績）

売上高 60.3億円
営業利益 8.4億円
ROE 8.9%

第9次中期経営計画

売上高 70億円
営業利益 10億円
ROE 9%以上

第10次～ 中期経営計画

長期ビジョン達成に
に向けた主要施策

テクノ製品事業

- ・コア技術の深化による高付加価値製品と環境負荷低減製品の開発
- ・増産対応への設備投資
- ・省力化推進による生産効率化
- ・海外拠点の拡充

メディカル製品事業

- ・既存市場拡販と高付加価値製品の新規分野への参入
- ・海外展開準備と新規販路開拓
- ・新工場建設用地取得予定

テクノ製品事業

- ・高成長エリアへの販売強化
- ・高付加価値製品の開発
- ・増産に向けた工場リニューアル

メディカル製品事業

- ・高付加価値製品の企画開発
- ・海外展開の本格化
- ・増産に向けた新工場建設予定

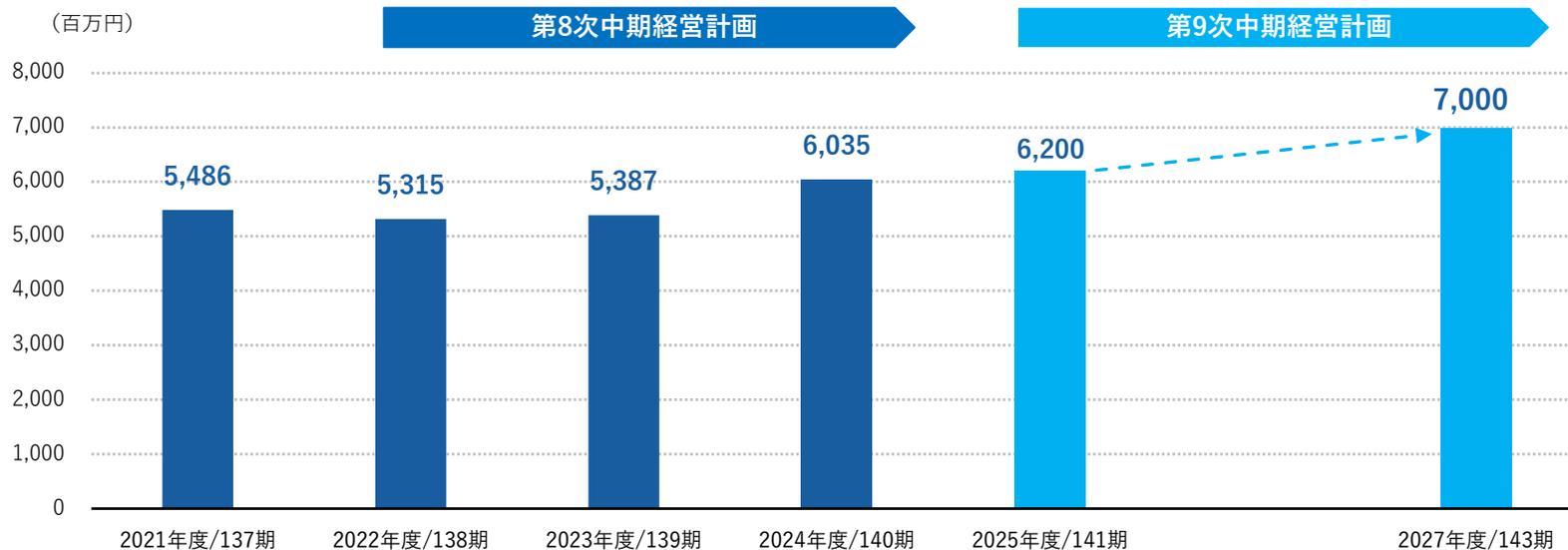
基本方針：ESG経営を推進し、新たな価値創出と持続可能な成長を追求する
 スローガン：To The Next Stage ～次のステージに向かって～

基本戦略	基本戦略-1	基本戦略-2	基本戦略-3
	<p>■強固な収益基盤の構築</p> <p>当社の強みである成形技術をさらに進化させ、新たな価値を創出する。</p>	<p>■環境負荷低減の推進</p> <p>温室効果ガス排出量削減の取り組みを進めるとともに環境配慮型製品の開発、拡販を行う。</p>	<p>■成長を支える人財育成</p> <p>人的資本投資を行うことで、従業員エンゲージメントを高める。ガバナンスを強化し、持続可能な体制を維持する。</p>

最終年度定量目標（2027年度/143期）

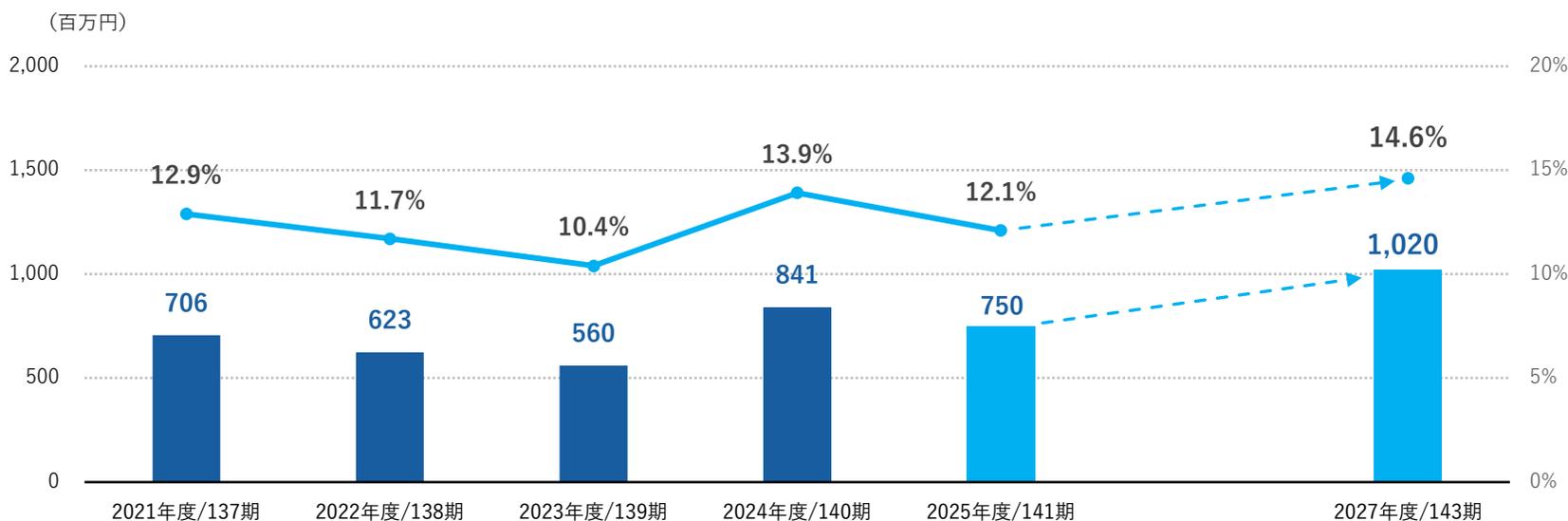
<p>売上高</p> <p>70億円</p> <p>140期比 +16.0%</p>	<p>営業利益</p> <p>10億円</p> <p>140期比 +18.8%</p>	<p>営業利益率</p> <p>14.3%</p> <p>140期実績 13.9%</p>	<p>ROE</p> <p>9%以上</p> <p>140期実績 8.9%</p>	<p>設備投資</p> <p>15億円以上</p> <p>前中計比 +167.8%</p>
---	--	--	--	--

売上高
(百万円)



営業利益
(百万円)

営業
利益率
(%)



サステナビリティへの取組

当社の創業者である渋沢栄一翁の経営哲学「道德経済合一説」（仁義道德と生産殖利とは元来ともに進むべきもの）は、持続可能な社会を目指すものであります。その精神を受継ぐ当社は、「真心をこめて、暮らしに欠かせない文化と科学を提案することにより、豊かな社会づくりに貢献できる企業を目指します。」を経営理念に掲げ、「オーベクスグループ行動規範」を定めるとともにリスクマネジメント方針をはじめとする各方針を策定しております。環境問題、社会的課題への対応を経営課題の重要事項のひとつと位置付け、ESG経営を推進することで持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

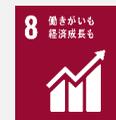
環境 Environment

大気汚染対策 廃棄物対策
環境に配慮した製品開発



社会 Social

働き甲斐のある職場環境 人財育成
人権の尊重 地域社会への貢献



ガバナンス Governance

コンプライアンス（法令と社会規範の遵守）
積極的な情報開示 リスク管理



本資料のお取り扱い上の注意

本資料に記載された見解や見通し、ならびに予測等は資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。
様々な要因により、今後の業績は本資料の内容と異なるものとなる可能性があります。また、本資料は当社をご理解いただくために作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。

IRに関するお問い合わせ

https://www.aubex.co.jp/contact_request/

オーベクス株式会社

コーポレートサイト <https://www.aubex.co.jp/>